

「家がいいね」 第93号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2012. 2. 13

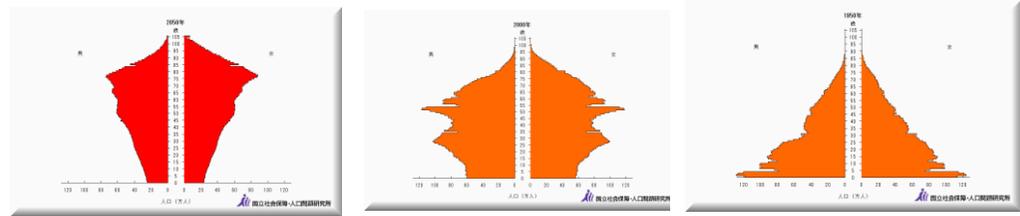
降りてゆく生き方のはじまり

この50年後は4000万人減り、総人口が8000万人になるだろうと新聞発表がありました。何も最近になってではなく、とうの昔から見通せたのです。下は人口ピラミッド図です。私の生まれた1950年、その50年後の2000年、さらに50年後の2050年と、若者が少なく、樹ならば根本の細い不安定な形になってゆきます。

今まで人々の生活意識は、ひたすら明日も良くなるのが当然に思い「景気が良くなれば幸せになる」が合言葉でした。欲しいモノも手に入るのが、当然と思ったわけですね。しかし人口は減り始め、坂の上の雲を見るのではなく、下り坂が見え始めてきたのです。ただ、人口減少で不幸になるわけでもありません。羊のほろが多い過疎の国ニュージーランドを訪ねたことがあります。医療もケアも機能していません。豊かに暮らす意識は、景気が決める訳ではないのです。

成熟した一人の人生の後半は、ゆっくりと下り坂を楽しんで降りてゆく意識が必要と、以前に言ったことがあります。同じことは、成熟した社会にも当てはまります。早く早くと焦ったり、問題を先送りにせずに、落ち着いて考えてみましょう。

五木寛之さんが「下山の思想」を述べていました。いくら追い求めても、**山頂に住むことは出来ません。無理な強行登頂に駆り立てられる中で、希望が細り自殺が蔓延する社会を作ってしまった。麓に向かつて安全に、下山する視線の中に、本来の山登りの楽しさが見えてくるはずです。**



狸が人間を見ると？

1994年のジブリの映画を覚えていますか。住宅開発で山を追われる狸たちに、人間の矛盾する一面を重ねあわせているように思えます。

化かしの合戦に勝利した人間は山を削り「ニュータウン」を作り、久しぶりに故郷に戻った狸が驚くような光景を見せました。現実の世界では今や、そこは「高齢者タウン」と化そつとしています。

狸たちが守ろうと必死になつたものが、今になって私たちが取り上げるべきではなかつたものだと思付くのです。

映画の狸は人間の分身のようなものです。声優さんにも驚くなかれ多くの落語家が登場していました。柳家小さん・古今亭志ん朝・桂米朝・桂文枝など。人間の愚かさを語る口調が自然に滲み出ていた好演だったと思います。

頂上を目指すばかりか、山を崩す愚行の人間から連想した、映画紹介です。



2月19日 日赤市民公開講座 (無料)

後半(15時~16時)を担当の予定です。
「がんでも 家に居ていいんです! 在宅ケアのすすめ」でお話しようかと、まだ考え中です。申し込みはファクスで、日赤28・2965へ



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>